

4 まなびいカフェ（生涯学習政策研究会さいたま）

（1）沿革

埼玉県では、平成 21 年度に全国生涯学習フェスティバル「まなびピア埼玉 2009」（以下「まなびピア埼玉」）が開催された。「まなびピア埼玉」のスタッフとして活動を進める中で、社会教育・生涯学習に対する意識の高まりを感じた実行委員会を中心として、その機運を維持・高めたいという意見が出るようになった。埼玉県教育局生涯学習文化財課内でも職員による自己研修の必要性を感じる声が上がっていたこともあり、平成 23 年 4 月頃から県の職員を中心とした有志の勉強会が発足した。その勉強会は 5 月頃までは、生涯学習文化財課を会場として、県の職員を中心に実施されることとなった。8 月頃からは、現会長等の若手職員を中心とする勉強会として独立した活動が展開されるようになった。

その後、「まなびピア埼玉」の開催から 1 年半ほど経過した平成 23 年 9 月に、そうした若手職員を中心とする勉強会が発展する形で現行体制での「まなびいカフェ（生涯学習政策研究会さいたま）」（以下、生涯学習研究会）が発足した。生涯学習研究会の活動は、会員の意見交換の場となる「まなびいカフェ」を、県庁内で実施されていた勉強会の月に 1 回というペースを保ちつつ、駅前の市民活動センターを会場として展開している。生涯学習研究会の設立趣旨は、「地域社会づくりに意欲や関心のある方なら、だれでも自由に参加でき、参加者が学び語り合う場を提供し、交流・情報交換をすること」であり、その実現のためにも「自らのためだけでなく、一歩進んで地域やそこに住む人たちの役に立つこと」を前提に、「地域、時代にあった社会教育・生涯学習の在り方を研究する」ことを掲げて活動を展開している。こうした緩やかな規定の下で、同様の関心を持つ（民間・行政にとらわれない）様々な職種の人材が、月に 1 回開催される「まなびいカフェ」で定期的・継続的に意見交換をする中で、埼玉県内広域にわたる人的ネットワークが形成されるようになった。

（2）運営の実際

① 会員・会則・会費

会員…正規会員 20 名（平成 24 年 4 月末日時点）＋「カフェ会員」

会員の種類には、会の運営に参加できる正会員と、月 1 回の意見交換会に自由に参加する「カフェ会員」がある。「カフェ会員」については、各回によって異なりその属性、人数を把握することはしていない。現在の正会員の属性は、自治体職員 10 名、そのほか 10 名（民間企業・団体・大学・小学校等）となっている。応募資格は「埼玉県在住・在勤・在学で社会教育・生涯学習に意欲・関心のある方」や「社会教育・生涯学習に関心や関わりがあり、会の目的に賛同する企業、団体、市民など」として、会員への門戸を開いている。

会則…「まなびいカフェ（生涯学習政策研究会さいたま）会則」

会費…年 1,000 円（正会員）

「まなびいカフェ」参加時には別途参加費 500 円（資料、飲物代）を支払う。

「カフェ会員」は「まなびいカフェ」参加時に参加費 500 円を支払う。講師を決めずに実施される「フリートーク」の回は原則無料とする。

② 主な組織構成

事務局… 代表が定めるところ。平成 24 年度は代表個人が持っている。会員間の主な連絡手段はメールを使用。

役員… 代表 1 名，副代表 1 名，幹事 8 名，監事 2 名で，任期は 1 年（ただし再任を妨げない）。

（3）活動の実際

生涯学習研究会の主な活動は，年 1 回の総会と，毎月 1 回の「まなびいカフェ」の開催である。総会は，県の社会教育主事を中心に組織される埼玉県社会教育主事等研究会との共催で実施され，「まなびいカフェ」の 1 回とカウントされる。「まなびいカフェ」は「自由におしゃべりしながら社会教育・生涯学習に関する情報交換や参加者の交流を深める会合」であり，「勉強会というよりも自由な意見交換の場へ」という考え方の下で開催されている。その活動は，毎月最終週の月曜日の 19：30～21：00 に，基本的には浦和駅前の市民活動サポートセンターを会場として開催される。このように，日時・場所を固定することで，各会員が予定を立てやすく，会員の負担にならないような仕組みとなっている。平成 24 年度は総会を含めて全 11 回の実施を予定している。その内 2 回は「フリートーク」としてテーマを決めずに情報交換をする機会とし，1 回は「まなびい合宿」として 1 泊 2 日の宿泊研修として，設定したテーマについて理解を深められるような研修場面を設定している。

通年のテーマ（学習テーマ・事業テーマ）は役員会で決定し，そのテーマに沿って各回での発表者を決定する。ただし，発表内容は各発表者が決定することとして，その時々の方の会員の課題に沿った意見交換ができるような仕組みとなっている。このように「まなびいカフェ」は，短期的には各会員が業務や活動の中で感じる個人的な悩みについて検討する場面となっている。平成 24 年度学習テーマは「社会教育施設の連携と協同」を掲げ，事業テーマ「つながりの輪を広げる」「“やってみたい”を実現する」を掲げた。



<写真 1>まなびいカフェの様子



<写真 2>まなびいカフェの様子

(4) 成果と課題

生涯学習研究会の活動成果として、日々の仕事や活動の中では接することができない多様な職種や立場の人と意見交換ができることが挙げられる。参加者が広域的なネットワークを形成することで、業務に必要な様々な情報収集も可能になる。こうして、多様な参加者が交流することができる背景には、「まなびいカフェ」という定期的集まることのできる「場」を先に設定し、「カフェ会員」と呼ばれるような単発の参加もできるような会員制度を設けることで、柔軟な組織がつくられていることがある。また、「リフレッシュ」や「モチベーションの向上」といった精神的な活力を得られるという側面があることも、生涯学習研究会の活動を展開することによって得られる成果のひとつだといえる。

社会教育の担い手は必ずしも公務員であるとはいえず、指定管理者制度を導入する施設も増える中で、NPOや企業も含めた意見交換の場を持つことの必要性が感じられている。そうした中、「まなびいカフェ」のような活動は、そうした社会教育の多様な担い手同士が意見交換をする場にもなっている。

今後、会の方向性をより明確にしていく必要性を感じているが、十分な検討はできていない。当面は現在行われている「まなびいカフェ」を継続することが期待されるが、長期的にはその成果を地域に還元していきたいと考えている。その際、会の性格をどのように維持、又は変えていく必要があるのかについて議論をしていく必要がある。

訪 問 日	平成24年11月26日
対 象 者	まなびいカフェ生涯学習政策研究会さいたま代表 菊地 万里子
訪 問 者	社会教育実践研究センター 社会教育調査官 濱中 昌志 社会教育実践研究センター 専門調査員 加藤 由以